

2018年度友愛労働歴史館事業報告

友愛労働歴史館は年間を通し、Ⅰ展示会・講演会活動、Ⅱ資料の収集・管理作業、調査・研究活動、Ⅲ情報発信・PR活動、などの事業に取り組んでいる。2018年度(2018年4月1日～2019年3月31日)は、以下の事業を行った。

Ⅰ展示会・講演会活動について

友愛労働歴史館は主な活動の一つとして展示会(常設展・企画展)活動と、これに連動した講演会・労働講座の開催を行っている。

友愛労働歴史館の2018年1月～12月の入館者数は、1035名。これに2019年1月～2月末の入館者244名(1月171名、2月73名)を加えると、2012年8月1日の新装オープン以来の延べ入館者数は、9127名(2019.2.28現在)となる。

1. 展示会(常設展・企画展)活動

友愛労働歴史館は展示会活動として、常設展と企画展(年2回)を開催している。常設展「日本労働運動の100年余—友愛会・総同盟(戦前)を中心とする」は、2012年8月1日の新装オープン以来、原則同一テーマで開催し、折々に一部の展示をリニューアルして、今日に至っている。

企画展は年2回(上期、下期)、テーマを決めて開催している。上期は1月5日から弁護士・政治家(首相)の片山哲を取り上げ、片山哲没後40年、そして片山内閣崩壊から70年を記念した企画展「戦後民主化のリーダー 片山哲」(2018.1.5～6.29)を、6月29日まで開催した。

下期は友愛会・総同盟の松岡駒吉(労働運動家、政治家、日本労働会館理事長)を取り上げ、松岡駒吉の生誕130年、没後60年を記念した企画展「松岡駒吉—ひとすじに労働者の利益を守った男—」(2018.7.6～12.21)を、7月6日にスタートさせた。12月21日まで開催した。

2019年1月7日からは民社党結党60年を記念し、企画展「民社党結党60年—勤労国民政党的旗を掲げて—」(2018.1.7～06.28)を開催している。また、展示の一角を活用し、ゆかりの人々である西尾末広(労働運動家、政治家)や和田春生(労働運動家、政治家、評論家)らを紹介している。

<友愛労働歴史館企画展>

①「片山哲」展

と き：2018年1月5日(金)～同年6月29日(金)

と ころ：友愛労働歴史館・展示室

テ マ：企画展「戦後民主化のリーダー 片山哲」

内 容：第1部「片山哲の生涯—1887年1978年」

第2部「片山内閣の誕生と崩壊」

第3部「片山内閣を支えた人々」

②「松岡駒吉」展

と き：2018年7月6日（金）～同年12月21日（金）

ところ：友愛労働歴史館展示室

名 称：企画展「松岡駒吉—ひとすじに労働者の利益を守った男—」

内 容：第1部「松岡駒吉の生涯」

第2部「野田醤油争議とその教訓」

第3部「労働者の利益を守る現実主義労働運動」

③「民社党60年」展

と き：2019年1月7日（月）～2018年6月28日（金）

ところ：友愛労働歴史館・展示室

名 称：企画展「民社党結党60年—勤労国民政旗の掲げて—」

内 容：第1部「民社党前史—社会民衆党から日本社会党までの35年」

第2部「民社党の結党—その理念、組織、政策、活動」

第3部「民社党の解散—新進党・民主党への合流、民社協会の結成」

2. 講演会活動

企画展と連動させた講演会・労働講座を、労使関係研究協会その他の団体と共催し、もしくは単独で開催している。2018年度に以下の講演会・労働講座を開催した。

①名 称：「片山哲・民主化のリーダー」（労使研と共催）

と き：2018年5月24日（木）14：00～16：00

ところ：友愛労働歴史館・研修室

テーマ：「片山哲・民主化のリーダー、現代に受け継ぐものはなにか」

講 師：梅澤 昇平 尚美学園大学名誉教授

②名 称：友愛会創立記念労働講座（友愛会創立を記念する会と共催）

と き：2018年8月1日（火）10：30～11：45

ところ：友愛労働歴史館・研修室

テーマ：「松岡駒吉と野田争議を通して、21世紀の働き方を考える」

講 師：石井 一彦 郷土史家

II 資料の収集・管理作業、調査・研究活動について

友愛労働歴史館は、年間を通して資料の収集を行っている。また、必要な調査・研究活動に取り組んでいる。

1. 資料の収集・管理

2018年7月、元民社党関係者より和田耕作（元民社党代議士、元民主社会主義研究会議事務局長など）関連資料の寄贈を受けた。

2018年9月、元鉄労関係者から鉄労関連資料、旧ゼンキン連合関係者からJAM関連資料、電力総連関係者から民社党関連資料の寄贈を受けた。また、住田良能（元産経新聞社長）の遺族より住田蔵書の一部の寄贈を受けた。

2019年3月、電力総連関係者から新進党その他の資料の寄贈を受けた。また、連

合関係者から民社研全国研究集会報告書その他の資料の寄贈を受けた。

2. 調査・研究活動

友愛労働歴史館は、常設委員会として「ユニテリアンと社会運動研究会」、「政治・社会運動史研究会」の2つの常設委員会を設置し、調査・研究活動を行っている。また、必要な研究会を設け、調査・研究活動を行っている。2018年度は、以下の研究会を開催した。

①「第18回政治・社会運動史研究会」

名 称：「祖父・三輪寿壮について語る」（公開報告会形式で）

と き：2018年7月19日（木）14：00～16：00

講 師：三輪 建二 星槎大学大学院教授

と ころ：友愛労働歴史館・研修室

②「第19回政治・社会運動史研究会」（公開報告会形式で）

名 称：「和田春生を語る―一生誕100年・没後20年」

と き：2019年3月19日（火）14：00～16：00

講 師：「政治家・和田春生を語る」

梅澤 昇平 尚美学園大学名誉教授

「労働運動家・和田春生を語る」

間宮悠紀雄 友愛労働歴史館事務局長

と ころ：友愛労働歴史館・研修室

③井堀繁雄研究会

梅澤昇平研究員の協力を得て、井堀繁雄（労働運動家・協同組合運動家・政治家、日本労働会館理事長）が残した手帳のデジタル化作業に取り組み、調査・研究活動を行っている。

III 情報発信・PR活動について

友愛労働歴史館はインターネットを利用したメールレポート「友愛労働歴史館たより」の発信、ホームページHPでの情報提供・PRなどに取り組んでいる。また、研究者・学生らへの相談対応、資料提供などに取り組んでいる。

1. メールレポート「友愛労働歴史館たより」の発信

メールレポート「友愛労働歴史館たより」第131号を、2018年4月24日に発信した。その後、5月25日、6月26日、7月30日、8月14日、9月18日、10月25日、12月8日に発信した。2019年は1月25日、2月25日、3月25日に、「友愛労働歴史館たより」第140号、第141号、第142号をそれぞれ発信した。

また、当館はEメールを活用し、必要な情報をメールアドレス登録者に随時、発信している。2019年2月末現在のメールアドレス登録者は約1200名である。

友愛労働歴史館Eメールアドレス yuairodorekishikan@rodokaikan.org

2. 友愛労働歴史館ホームページの開設

友愛労働歴史館は情報提供用にホームページ HP を開設しており、随時更新している。友愛労働歴史館 HP <http://www.yuairodorekishikan.com>

3. その他

- ①友愛労働歴史館の非公式ツイッター (@yuairekishi1912) を開設、随時更新し、情報を発信している。
- ②友愛労働歴史館の常設展チラシ、企画展チラシ、その他を活用し、紙媒体での PR 活動を行っている。
- ③友愛労働歴史館のメールアドレス登録者を対象に、紹介用スライド「ようこそ友愛労働歴史館へ」などのデジタルデータを E メールに添付・送信し、紹介活動・PR 活動を行っている。

IV その他

- ①NPO 法人働く文化ネット（総評会館）の労働映画鑑賞会（毎月 1 回・第二火曜日）に参加、協力した。
- ②神奈川県川崎市のサンピアンかわさき（川崎市立労働会館）で 2018 年 10 月 23 日～24 日に開かれた社会・労働関係資料センター連絡協議会 2018 年度定期総会に、当館より 2 名が参加した。また、川崎労働資料室、神奈川県立川崎図書館、光触媒ミュージアム、ミットヨ測定博物館の視察・研修を行った。
- ③2019 年 1 月 10 日と 25 日、慶応大学の考古学研究者により旧ユニテリアン教会・惟一館（明治 27 年現在の友愛会館）の煉瓦塀の煉瓦の調査が行われた。
- ④2019 年 2 月、友愛労働歴史館閲覧室においてドイツ・ボン大学の研究者（日本人）が約 3 週間に亘り、民社党関連資料の調査・研究に取り組んだ。
- ⑤政策研究フォーラム月刊誌「改革者」2018 年 4 月号に、論文「片山哲と片山内閣を支えた人々」が掲載された。同「改革者」2018 年 10 月号に、論文「労働運動家・松岡駒吉の 3 つのメッセージ」が掲載された。これは企画展「片山哲」・企画展「松岡駒吉」の PR 活動の一環である。

以上